

棚田に吹く風



3 2013
月号
Vol.87
隔月刊

- 2 特集
棚田イベント鉄板メニュー
- 5 フォトエッセイ
棚田の四季
- 6 棚田・里山からのたより
稲倉棚田を地元の「宝」に
長野県上田市殿城地区
- 8 棚田の未来予想図
棚田⇄温泉案内所

- 9 棚田博士は今日も行く
愛宕山を仰ぐ花の里
京都府京都市右京区嵯峨越畑
- 12 会員のひろば
- 14 棚田ネットワークの
かつどうノート
スタッフのつぶやき
- 15 Project Report



特集

棚田イベント 鉄板メニュー

棚田は見ているだけで美しい。でも、もっと踏み込んで、棚田地域が主催するイベントに参加すると、美味しい棚田を味わえるかもしれません。オーナーの田植えや稲刈り、季節のお祭りで振舞われる料理を楽しみに参加する方も多いのではないしょうか。地域の産物を活かしたご当地料理、地元のおかさんが腕を振るう汁、棚田にかけたオリジナルカレーなどなど。全国の5地域の棚田の鉄板メニューをご紹介します。ぜひ、味わいに行ってみませんか！



棚田イベント 鉄板メニュー

ヒメサユリまつりの 山菜汁と笹巻き

榎平棚田では棚田オーナー制度は行われていませんが、「棚田保全隊」が活動しています。保全隊員には誰でも応募することができ、年に7～9回程度、草取りや草刈り、杭掛けや脱穀などの作業で農家を手伝っています。6月上旬のヒメサユリまつりは、保全隊の第1回作業日でもあり、午前中に作業したあ

と、晴れていれば棚田を見下ろす一本松公園で地域のひとと保全隊員が交流。このときのメニューは山菜汁、棚田米のおむすび、笹巻きなど。笹巻きは山形の郷土料理で、餅米を笹で巻いて蒸したものを。黄な粉をつけて食べます。一本松公園の丘に自生するヒメサユリは、薄いピンク色の可憐な花です。



1・2：笹巻き／3：山菜汁／4：ヒメサユリまつり／5：ヒメサユリと榎平棚田

榎平棚田
山形県朝日町

棚田イベント 鉄板メニュー

大山千枚田
千葉県鴨川市

夏の草刈りから稲刈りまでのオーナー作業日に出る棚田カレー。棚田倶楽部（建物）が完成し調理場ができた頃から始まりました。できるだけ地元産の材料を使い、夏になれば夏野菜のカレーに。お弁当を持ってきてもいいのですが、多くの人が予約します。多いときは200

食も出るそう！デザートフルーツも付いて500円。たかがカレー、されどカレー。すっかり定番になりました。ご飯が棚田になっているの、わかるかな？ 田植えの時はまぜご飯など別メニュー。収穫祭もちろん全く別メニューで、盛大に行われます。

棚田カレー

1・2：棚田カレー／3：作業の前に説明を／4：オーナー田植え



棚田イベント 鉄板メニュー

キノコ汁

棚田百選では「いなくら」と登録されていますが、地元の人には「いなくら」と言っています。棚田オーナー制度が行われていて、春の田植えと秋の稲刈りのときにはキノコ汁が提供されます（何故か春でもキノコ汁?! もしかして豚汁だったかも）。巨大なお釜からひしゃくで豪快に盛り分け

られ、一度は食べてみたいもの。上田市は真田幸村ゆかりの地で名所旧跡が多く、また7月のほたる火まつりの日は上田祇園祭の日にもなっています。今年からは田植え・稲刈り以外の作業への参加希望を集計中。多様な交流が出来るうな、いま注目の棚田です。

稲倉棚田
長野県上田市



1：稲倉棚田／2：キノコ汁／3・4・5：巨大なお釜からひしゃくですくう

棚田イベント 鉄板メニュー

坂折棚田
岐阜県恵那市

坂折棚田は、名古屋方面の都市住民を中心にオーナー約50組。田植え、草取り、稲刈り、収穫祭の4回参加が基本です。収穫祭の時に出来る芋餅は、美濃や奥三河の郷土料理として有名な五平餅のバリエーション？ ご飯と里芋を混ぜて団子にし、網の上で焼いて味噌

だれをつけ、あつあつ、ホクホク！を食べます。そのほか棚田汁（猪汁）や赤飯など。ポン菓子にはみんな興味津々。坂折棚田では、伝統の石積み景観を受け継いでいこうと石積み塾が、また里山保全の一環として炭焼き塾も行われています。

いも餅

1：芋餅／2：石積み塾／3：石積みの草取り／4：坂折棚田全景



棚田イベント 鉄板メニュー

三谷いしがき棚田
山梨県山梨市

しし鍋

このオーナー制度では、作業終了時に年2回ほど昼食会があります。10月の初摺り終了後の昼食会では、しし鍋、三谷寿司、刺身こんにやくなどがメニュー。もちろんおにぎりや漬物もあります。しし鍋は、地元で取れた脂ののった猪を使用。戸外の大なべで薪を焚いて作ります。水を一切使わず、白菜などの野菜から出る水分に日本酒

を注いで味噌で味付け。刺身こんにやくは、三谷で三年かけて栽培されたコンニャク芋から手作りしたもので、三谷産柚子を絞って醤油を掛けて食べると絶品！ほかに、春の泥落とし（田植え後の）昼食会、自由参加の「ホテルまつり」でのバーベキューや、有志の「フバ刈り」、「フバ脱穀」など、なんだかんだでたくさん食事を頂いています。



1：三谷いしがき棚田／2・3：しし鍋／4：オーナー田／5：葉ワサビ醤油漬。少しツンツンと辛くて酒の肴に最高（春、オーナーに送られる）

棚田の四季

写真・文 梅野 秀和



春の田んぼ

四季の国日本。

春3月、棚田は一面菜の花で彩られ、こんな風景を見ていると、「いちめんのなのはな、いちめんのなのはな、……」と24回繰り返す明治生まれの詩人、山村慕鳥の「風景」と題した詩が思い出されます。

菜の花は、もともとは水田の裏作として広く栽培され菜種油の原料になっていましたが、最近レンゲソウと同じく田んぼの緑肥として、土と一緒に鋤き込まれることが多いようです。

春の田んぼは格好の遊び場で、レンゲソウで首飾りを作って近所の女の子とよく遊んだことが懐かしく思い出されます。



Profile

梅野 秀和

うめの ひてかず

1947年、佐賀県生まれ。写真は独学、主に写真雑誌やコンテストで学ぶ。1990年頃から風景写真を本格的に撮り始める。1994年、月刊誌『日本カメラ』で年度賞受賞。1998、2004、2007、2008、2009、2011年視点入選。2005、2006年JPS展入選。2002、2003、2011年二科展入選。

●写真集 「九州花百景」「九州花百景Ⅱ」「棚田～田んぼの四季～」(ほおずき書館)、「九州の一本桜」(梓書院)、「だんだん田んぼの詩」(樞歌書房)ほか。



上：佐賀県東松浦郡玄海町 浜野浦棚田 下：大分県別府市 内成棚田

棚田・里山
からの
たより



いなぐら 稲倉棚田を地元の「宝」に



上：稲刈り後の稲倉棚田全景。遠くに高速道路の上信越道が見える
下左：大宮北高の田植え／下中：オーナー田植え／下右：収穫前の稲倉棚田

全国トップクラスの 大規模棚田

長野県上田市の北東部、殿城地区の「稲倉の棚田」。稲倉の棚田は、元禄時代（江戸時代）から明治時代にかけて開田されたものといわれており、土手は石と土との巧みな調和により造られ、稲倉川（行沢川）沿いに延長2・5km、標高差260mにわたり山裾から谷あいに登りながら大小様々な形状の田が広がっています。

稲倉棚田保全委員会の 設立経緯

平成11年7月26日にその景観の美しさから推薦され「日本の棚田百選」に認定されて以来、棚田保全の機運が高まり、平成12年に棚田の荒廃地対策を進めていた上田市農業委員会を事務局として「稲倉の保全と活性化をすすめる会」が発足しました。また、同時期に

長野県上田市殿城地区 とのしろ

国の中山間地域農業等直接支払制度を導入し、集落協定参加者による「中山間地直接支払の会」も発足し、それぞれ別の団体として草刈り、伐採、復田作業、耕作道の整備などを行ってきましたが、主に地元有志らで構成される「活性化をすすめる会」は活動資金の調達に苦労する一方、「直接支払の会」は国からの補助金を受けており、同じ活動をしていながらお金が出る方と出ない方があり、これによって地元がギクシャクし、会の運営や保全活動がままならない状況が生じ始めました。こういった状況を改善すべく平成15年9月に、予算を持たなかった「活性化をすすめる会」を発展的に解消し、地元殿城地区に加え豊里地区の住民や農業協同組合、行政などで構成される「稲倉棚田保全委員会」が発足するに至り、殿城と豊里地区を合わせた「オール豊殿」の陣容で保全活動を行っています。

“オール豊殿”地域一丸の 棚田保全

稲倉棚田保全委員会では、この稲倉棚田の自然景観の保持と環境保全を推進し、棚田を荒廃から守るために、棚田での米作りのほか、都市部の中学校・高等学校からの農業体験学習を受け入れたり、オーナー会員による農作業体験（いわゆる棚田オーナー制度）を実施したり、棚田の景観を利用した「ほたる火まつり」や「案山子まつり」などのイベントといったさまざまな活動を行っています。地域とのつながりも大切に、地元小学校の授業の一環として行う農作業体験学習にも、水田の提供や作業指導などの支援を無償で行っています。また、この稲倉棚田で作られたお米は「稲倉棚田米」としてブランド化し、都市部での物産展などでも販売しています。

課題。そして想い

委員会設立から10年。活動における最大の課題は、担い手不足です。

■ 棚田へのアクセス

【公共交通】 JR上田駅下車、駅前からタクシーにて11km約20分

【自動車】 上信越自動車道・東部湯の丸ICより5km約10分。ICを出て県道4号線に入り市民の森公園を目標に北上する

■ お問い合わせ

稲倉棚田保全委員会 事務局
上田市農林部 農政課 地産地消推進係
弓掛 拓人 TEL：0268-23-5122



上：7月のほたる火まつり
下：秋の案山子まつり



棚田で米作りを営んでいた農家の高齢化や後継者不足に加え、地域の過疎化により同一人物が複数の地域団体の役員を兼務することになり、その負担の偏りが役員になることを忌避する要因になるという悪循環が生じています。

このような中において保全活動を継続していくためには、思いだけではなく、そこに参加する者を含め地域住民の実利につながる活動が必要となってきました。そのような考えから、一種の利益的事業として農業体験学習の受け入れや棚田オーナー制度の実施などをしてきました。また、「ほたる火まつり」

り」などのイベントを通じて、棚田への愛着と棚田保全の意識を高めることにも努めてきました。これらの活動によって、現在では当初ボランティア同然で行っていた活動が、少しずつ実利ある活動へと変わってきています。

一方で、活動に見合う見返りを得られるようにと活動を拡大すればするほど、担い手不足が大きな負担となつてのしかかるというジレンマも生じています。

そんな中、平成23年度に採択となった長野県の中山間総合整備事業により、稲倉棚田を中心に13億円ものお金が水路や農道の整備改

修、交流施設の建設に投入されることとなりました。この事業により棚田における農業負担の軽減を図るとともに、農業体験学習の受け入れや棚田オーナー制度をより充実したものへと発展させていきたいと考えています。

昨今盛り上がりを見せる都市農村交流の拠点として稲倉棚田の潜在能力を引き出しながら、地域住民にとって稲倉棚田が本当の宝物となることを願って、これからも活動を続けて参ります。

稲倉棚田保全委員会 事務局
弓掛 拓人



第3話 棚田雛壇

20XX年……

棚田ごよみの旧暦：春の気配が芽吹き始める桃の節句。

畦の段差を雛壇にして子供たちが平安装束で演じる雛祭り。棚田の伝統的風景になりました。

お米作りを主体とする棚田ですが、その立地特性が見直され新たなステージとして活用されはじめたのです。

圧倒的な大きさの千枚田に、たくさんを着飾った子供たちと笛や太鼓の太合唱は里山のイベントとして大盛況に！



イラスト：横山功

みなさんの楽しい
アイデアを募集しています！！

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号「棚田に吹く風 未来予想図」宛
メールでも受付けています ⇨ hiroba@tanada.or.jp



※新田の棚田から松之山温泉まで車で約15分



第一回
新田の棚田と松之山温泉

全国のベスト・カップルな
棚田と温泉を、紹介！

新田の棚田は、新潟県十日町市浦田にある約40枚の棚田で、都市住民のグループが水管理以外の全ての作業を行うことで耕作維持されています。稲刈りの時でも長靴が必須なほどの強湿田ですが、すり鉢のような地形に曲線の畔が美しく、多くのカメラマンが訪れます。

そこから車で約15分ほどのところにあるのが松之山温泉。ナトリウム・カルシウム・塩化物物泉(弱アルカリ性)、1リットあたりのホウ酸含有量は349.5ミリグラム。日本一です。源泉のそばにある看板には「約一千万年前の化石海水が、地圧によって湧出してくるジオプレッシャー型温泉である」という内容の記述がされていて、舐めてみるとしょっぱいので、きつそうなのでしょう。「日本三大薬湯」とあちこちに看板が上がつているのですが、ほか二つの群馬の草津温泉、兵庫の有馬温泉と全国的に有名な二つの温泉郷でその看板を見た事がないので、存在自体が認識されているかは不明です。

ここで、私にとっての棚田と温泉の関係を考えてみると、「転地効果(心理効果)」なのかな？ みんなで野良仕事をして、汚れたカラダを綺麗に洗うのが主目的だったりますので、温泉を味わうというよりも、大きなお風呂に話をしながら皆で入り鋭気を養う。日常生活から離れ、棚田や温泉のある環境に行くことにより五感に刺激を受けると、脳内のホルモンを調整する内分泌系や呼吸、消化といった生命維持活動をつかさどる自律神経のスイッチが入り、そこでストレスを解消し、精神疲労や体調不良に効果を発揮するような気がしています。

(温泉ソムリエ S.K.)



棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

愛宕山を仰ぐ花の里

京都府京都市右京区嵯峨越畑



オミナエシ、ホオズキ 花栽培の盛んな集落

京都市街地から北を望むと北東に比叡山、北西に愛宕山が鎮座している。秀麗な比叡山の姿に対して、無骨で拳骨のような形をしているのが愛宕山、その西斜面に京都市右京区嵯峨越畑の棚田がある。第1回全国棚田サミットにおける写真コンテスト作品を編集した写真集「棚田」に紹介されていたので、早くからその存在は知っていた。しかし、京都市側の愛宕山山麓を探しても水尾、清滝、高尾はあっても越畑は見つけることができなかった。京都市の観光課に訊ねると、亀岡市側の愛宕山西斜面にあるとのこと、公共交通機関によるアプローチも山陰本線亀岡の2つ先の駅八木から1日3便、京阪京都交通のバスが運行されていることを教えてもらった。

2012年7月と10月に嵯峨越畑を訪ねた。前泊した京都から、朝7時山陰本線の普通電車に乗り、八木で下車する。バスは駅前から国道9号を横断して直進、桂川に架かる八木大堰橋を渡り、国道477号を東へ、旭町で左折、迂回するため神吉へ向かう。自家用車であればそのまま三俣川沿いに東進、廻田池東端で迂回してきたバスと合流する。ここで道は2つに分かれ、右折して府道50号に入り、坂道を上れば越畑の集落である。

越畑は、正確に云えば愛宕山塊に属する地藏山の西斜面、標高350㍍、450㍍、比高差100㍍の斜面に民家と田畑が広がっている。戸数40戸、水田20㍍とされるが、空家が数戸あるので実際は35戸前後で17㍍の水田が耕作されている。仏花であるオミナエシとホオズキの栽培が盛んで花の里といわれ、愛宕山を仰ぐ位置にある。棚田は、斜面を刻む河谷に隔てられており、北から中条・下大谷、大根谷、大島、正権条の棚田と呼ばれている。中条・下大谷と大根谷は県道より上にそれぞれ2列、30段ずつ土坡の棚田が並び、一枚の大きさは畝町直しで10㍍前後のものも見られるが、多くは1㍍〜3㍍、段高は1㍍ほどである。

面積が最も大きいのが大島の棚田、府道より上は民家が占め、府道

なかしま みねひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO 法人棚田ネットワーク代表。全国棚田(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地歴科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田—保全への取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以上、古今書院)。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。



1: 越畑の棚田(10月) / 2: オミナエシ / 3: ホオズキ畑 / 4: 地域活性化施設「まつばら」



より下に農道で分けられた7列の

棚田があり、各列30〜35段の段数が数えられる。棚田は、府道から20段あたりを境にして形状や一枚の大きさがはつきりと異なり、上段と下段に分けられる。上段部分は等高線状の畦畔で区切られ幅が数メートルと狭く、一枚が1〜3メートル、土坡の高さは1メートルほどである。下段部分は形状が方形に近く、一枚が5〜10メートル、土坡の高さも2メートルはある。越畑では1940年頃に用水不足を解消するため、地蔵山の東斜面を流れる芦見谷川の水を流域変更して、340メートルの隧道により西斜面に導き棚田の水源にしたそう。それまでは大島の棚田の半分はソバ畑だったというから、一枚が大きい下段部分はこの時に開

田されたものと思われる。

正権条は、府道の下に2列、30段近くの棚田があり、形状や一枚の大きさは大島の上段の棚田に類似、土坡の高さは1〜2メートルほどである。

耕作放棄地が目立たない越畑 主要メンバーに話を聞く

集落の入口にある地域活性化施設「まつばら」で、施設を運営する越畑フレンドパーク農事組合法人の主要メンバーに会うことができた。組合理事長の大西恒治さん71歳、越畑自治会会長、中山間地域直接支払地区代表、京都市花卉振興協会理事も務めている。奥さん69歳、シャッター会社に勤める長男40歳の3人家族。兼業で土建会社に勤めたこともあるが農業一筋、

自作地50アと10ア当たり5000円で利用権を設定した小作地2畝を耕作している。機械類は中型トラクター、3人で共有する乗用5条田植機、乗用3条刈コンバイン、乾燥機を所有。労働力は本人と奥さん、長男が農繁期のみだが手伝うそう。コメは京都の俵屋や点邑、東京麻布の有名料亭などに直接販売しているという。

経営耕地2・5畝のうち、50アはお盆の仏花として出荷されるオミナエシ40アとホオズキ10アの露地栽培に利用される。オミナエシは春に植え付け翌年の夏に切花として収穫するため、ローテーションによる計画的な土地利用が必要である。その他に、転作田を利用して亀岡市から原木を購入、約2000本に植樹、これらを萱で覆っての椎茸栽培、またフレンドパークが経営する蕎麦屋「まつばら」で販売するカブ、カラシダイコン、ナガダイコンなども栽培しているそう。長老、自治会会長として集落をリードする気概と自信に満ちた話し振りであった。

集落で最も規模の大きい吉田農園を経営する吉田達男さんは、フ

レンドパークが経営する蕎麦屋のソバ打ち担当の日で、仕事の合間に話を聞くことになった。吉田さんは66歳、農園に関わるのは奥さん65歳、長男宗弘さん37歳、長女の婿小野勝也さん39歳の4人である。達男さんは高校卒業後、アメリカのシクラメン栽培農家で1年間の農業研修を体験、帰国後3年間、両親が経営する農業を手伝いながら京都農協越畑支店に半日勤務した。その後専業農家となり、およそ20年間、米作のほかシクラメンを栽培してきた。経験豊かな経営者らしい貫禄の持ち主である。

現在は自作地1畝、小作地5畝あわせて6畝を耕作、そのうち、4・5畝で水稻、1・5畝でオミナエシ、ホオズキの切花、「まつばら」で販売するトマト、ナス、パプリカなどの野菜類を栽培している。機械類は大型トラクター2台、乗用5条田植機、乗用3条刈コンバイン、乾燥機を所有している。中核となる米作は3人の男性が担当、機械類のオペレータになり、収穫時にはコンバインの操作を婿の小野さん、その後の乾燥・調整を長男の宗弘さんが担っているそう。

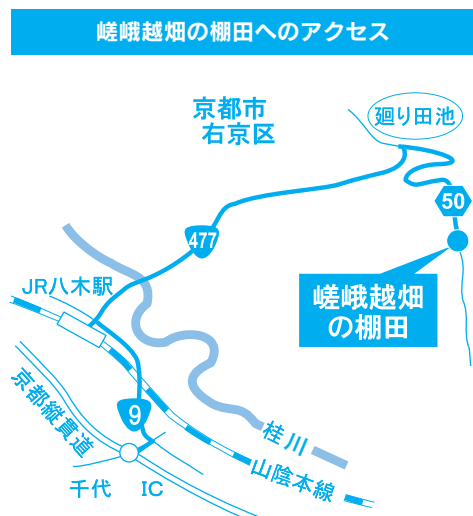


宗弘さんは、高校卒業後、専門学校に進学、卒業後3年間会社勤めをして、23歳で帰農した。小学校の作文に将来は農業をやりたいという希望を述べていたというから計画的な転進である。奥さん44歳は亀岡市の会社に勤め、小学5年の女の子がいる。吉田農園ではすべての仕事を担うが、主として切花栽培の責任者になっている。私が棚田の写真を撮るのに熱中して終バスに乗り損ねたのをみて、軽トラに私を乗せてバスを追いかけ、隣の集落で追いついてくれた。思いやりのある好青年である。

小野さんは、大阪府高槻市の出身、京都産業大学を卒業後、6年

間OA機器の会社に勤め販売を担当
自然のなかでの生活に憧れ28歳で
脱サラ。その後4年間、奥さん38歳
の実家である吉田農園へ車で通い、
農業技術の習得に励んだ。子供が
小学校に入学するのを機に、越畑
に家を見つけ、タータンした。現在
吉田農園では野菜部門を担当、少
量多品種の野菜類を栽培し、「まつ
ばら」で販売している。奥さんは
自宅の一部を改造して土・日曜日
に営業する「農家カフェ」を経営、
自作の野菜類を使ったケーキをつ
くり、ドリンクとセットにしたメ
ニューを提供している。越畑の自
然のなかで暮らす生活を大事にし
ている夫婦である。

3人目の主要メンバー木村貞志さん60歳は、芦見谷川からの用水路を管理する越畑土地改良区の理事長であり、吉田さんと日替わりでソバ打ちも担当している。58歳の奥さん、84歳の母親、29歳の銀行に勤める長女、20歳の専門学校に通う次男の5人家族。自作地2畝、5年間の利用権を設定した小作地1畝を奥さんと農繁期のみ手伝う次男の3人の労働力で耕作、2・5畝に水稲、0・5畝でオミナエシ、ホオズキ、ソバを栽



【公共交通】JR山陰本線・八木駅下車、駅前より京阪京都の路線バス「原」行きに乗車、越畑フレンドパーク前下車。八木駅から10km約30分

【自動車】京都縦貫自動車道・千代川ICより国道9号線、国道477号を經由して府道50号線に入る。ICより14km約20分

増している。ホオズキとソバは同一圃場での2毛作による。コメは嵯峨のホテルに直接販売しているそうだ。

越畑では、これら主要メンバーのほか他の組合員3名を加えた6名が現在利用されている水田の大部分を耕作しており、耕作放棄地が目立たない。その理由は、農水省が過疎高齢化地域における担い手確保の対策として進める「人・農地プラン」でいう出し手（離農者）と受け手（規模拡大を図る耕作者）との関係が出来上がっているからだと思った。



棚田でハチミツが採れる？

東京都杉並区 川澄 雄司

“養蜂”と聞いてもほとんど具体的なことをイメージできなかった私が、何かの手違いか、はたまた暴走か、今春から、西洋ミツバチを5箱程度飼うことになりました。知り合いになった養蜂家が教えてくれるというのです。場所は神奈川の三浦半島南部と山梨県の上野原を予定しています。そして、養蜂の具体的な準備を進めるにつれて強く意識させられる問題が出てきました。ミツバチと農薬の関係です。

三浦半島で蜂の巣箱の置き場所を探していた際、農家の方からいろいろ話を聞きました。“以前はミツバチの巣箱を置かせて欲しいと養蜂家がよく回ってきたが、最近はほとんど来なくなった”、“家の裏でも去年まで蜂の巣箱を置いていた人がいたけど蜂が全滅したと言っていた”、“近くの養蜂家は3年くらい前から秋と冬は三浦半島以外へ蜂を移している。そうすると蜂の調子がよいそうだ”などなど。三浦半島、特に南部は経済効率重視の商業的な農業がさかんです。ミツバチが農薬の被害を受けやすいようなのです。

ヨーロッパでも、ネオニコチノイド系農薬がミツバチに影響を与えるとして、問題になっています。ミツバチには、ハチミツを採ること以上に大切な役割があります。花粉交配です。世界の食糧の1/3は、ミツバチの花粉交配にたっているとされ、ミツバチの減少は食糧問題で



あるともいえます。

そんなことに今さらながら気づかされているうちに、棚田に思いが至りました。農薬の少ない田んぼの環境は、また地域の環境と複雑に結びつく棚田は、ミツバチにとっても心地よい環境なのでは。逆に、ミツバチが飼えるということは棚田やその周辺の環境の良さを証明することになるのでは。

ミツバチがイネの花粉を集めることはありますが、風媒花であるイネは花蜜を出しません。レンゲなら緑肥になって花蜜も採れる。ミツバチの都合から言わせてもらおうと、蜜源として菜の花でも構いません。棚田に広がる春の花畑。そんな光景は人を魅了しそうです。もちろん、花のハチミツもたっぷり味わって…。ハチミツで都会から労働力をおびき寄せる…。

妄想が広がってきたところでインターネットを使って調べると、やっぱりいらっしゃいました。同じことを考えている人たちが。四国の徳島県佐那河内村です。昨年からレンゲの種を棚田に播いて、ハチミツも採ろうと試みています。

ところで、ハチミツは、採る土地が違えば味はみな違います。花とハチミツは、その土地らしさ、また多機能という棚田の魅力を、さらに後押ししてくれるように思います。

会員のひろば



会員の声募集！



「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください！「ご要望、感想やご質問でもOK！」（会員の声800字まで、会員レポート400字まで。写真も添えて）〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-18-16 トーシンハイム704号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛 メールでも受け付けています ↓ hiroba@tanada.or.jp



会員さんの
Best Shot!

会員のみなさんの
ベストショット募集!!



みなさんが撮影した棚田や作業風景の写真など、ベストショットをコメント（70文字程度）を添えて編集部まで送ってください。毎号、紹介させていただきます！送り先は下記。

〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-18-16
トーシンハイム704号
「棚田に吹く風 ベストショット」宛
メールでも受け付けています
⇒ hiroba@tanada.or.jp



一朝の夢

東京都中野区 峰 不三子
（中国雲南省元陽県 多依樹の棚田）

写真は上手くないですが、一生忘れることのない思い出の朝日です。

棚田散歩

佐賀県伊万里市の棚田



伊万里、月夜の雪棚田

仕事の出張で伊万里へ。この佐賀と長崎の沿岸は本当に棚田の多い地域で、棚田ネットでもおなじみの保存会もあるし、小規模ながら頑張っている農家さんも多い。仕事を終えた夜、伊万里の街に雪が舞っていました。翌日は棚田散歩の予定。これなら、雪化粧した棚田風景に出会える！と心躍りました。そもそも、この地域の雪は、年に1回積もるか積もらないか、という程度のもので、平地の田んぼより、棚田のほうが明らかに雪の積もる確率が高く、雪が田の土を鍛えるから、棚田の米が美味しくなるに違いない。この地で棚田が多く存続しているのは、美味しいから、ではないだろうか？

さて翌日、棚田を求めて伊万里湾を北上、「いろは島」の見えるあたりまで来ると、見事な棚田の景色が広がっていましたが…雪は、嘘のように消えていました。地元のオジイに訊くと、昨晩は雪が止んだあと、月が出てきたそう…さぞかし綺麗だったのだろう、惜しいことをした！今日は冬の細い陽が海面に輝き、棚田は春の陽気をうつすら感じさせる。水の張られる季節が待ち遠しい。季節感を楽しめるから棚田散歩は楽しい。次回のお出張でも必ず棚田散歩に訪れます、という事は内緒にしておいて下さい(笑)。(愛知県名古屋市長 大久保芳洋)



編集部イチオシ! BOOK & MOVIE

2011年／DVD／カラー
107分＋特典60分
¥4900(税別)

監督：金田 敬
原作：旭爪あかね
好評発売中



アンダンテ～稲の旋律～

曲がつて植えようが 転んで植えようが、
稲はまっすぐ 上を向いて伸びるんだよ

現代社会において深刻な問題の一つである引きこもり、対人恐怖症、音楽の厳しい世界での競争に疲れ自信を喪失した主人公・千葉は大学も辞め、一日中家に閉じこもり、両親とのいざこざに辟易していた。一通の紙切れから始まった、水田での他者との交流を通して、彼女は新たな道を切り開いていく…。食と農と大地、そして人間再生の胸を打つ物語。



ぼくが百姓になった理由 ～山村でめざす自給知足～



浅見 彰宏 著
¥1900 (税込)
コモンズ
2012年11月

会津の山村に「ターン」して16年。「ひぐらし農園」で有機複合の有機農業を実践し、250年間守られてきた用水路を受け継ぐと堰浚いボランティアを組織し、福島県有機農業ネットワークの理事として活動する。歳月の流れに沿って書かれた「ターンの経過と地域に根付くまでの奮闘は、読みやすく面白い。震災後の福島の農産物に対する消費者の反応を契機に、あらためて有機農業の基本理念を問い直し再生に向けて前を向く著者に、エールを送りたくなる。

まちの先生見本市に初参加!!
糊摺り/体験に皆夢中!!

2013年2月2日 報告 石川 公康

2月2日(土)、まちの先生見本市が、新宿区立戸山小学校で開催されました。各企業、団体から環境に関するテーマで40ブースが出展し、当ネットワークも初参加しました。

我々の展示テーマは「お米のひみつ」。季節ごとの棚田の生きものや糊摺り道具の推移等のパネルや棚田の景観写真の掲示の他、特に子供たちを対象に自分たちで選んだ道具で糊摺りを楽しんで体験してもらうことを目玉としました。

当日は天候にも恵まれ、多くの小学生が参加する中、当ブースにおいても子供たちに混じって保護者たちも糊摺りに夢中になり、体験者も100名を超える盛況振りでした。

今後とも多くの年齢層の方に興味を持ってもらえるような活動を続けていきたいと思います。



『旧暦棚田ごよみ』
祝 完売!

報告 内田 千鶴

写真家・青柳健二さんの提唱で始まった「旧暦棚田ごよみ」プロジェクト。優秀なデザイナーさんを迎え、皆で試行錯誤して製作・販売。そして先日おかげさまで、ついに予定数完売しました。会の財政にもきちんと貢献できてホッとしました。書店卸などもせずよく売れたものだなと思います。購入された皆様はラッキーです!これから一年間、この暦と共に素敵な旧暦生活を送って下さいね。そしてそして、早くも来年度の「旧暦 棚田ごよみ」は予約受付中です!



棚田ネットワークの
かつどうノート



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

スタッフの
つ・ぶ・や・き
＜輪番制＞



今回のつぶやき人

事務局
Sagan

中島博士傘寿叙勲記念文集
『百人の棚田讃歌』

昨年、棚田博士こと棚田ネットワーク代表の中島峰広博士は年末に傘寿の祝いを迎えられ、また、秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章されました。それは代表の多年の功績を讃えるものではありませんが、棚田保全に関わるすべての人への励みでもありました。そして、中島代表が棚田保全に果たした役割がそのまま棚田保全の歴史になって来たという経緯から、記念として棚田界を挙げて一冊の文集が編まれました。

棚田保全の活動が全国規模で始まったのは平成7年のことです。それまでは棚田という言葉すら世間では知られず、多くの棚田は滅反政策などで耕作放棄が進み荒廃していました。そんな状況から脱却して棚田を復活させようという各地の機運をとらえて平成7年に第一回棚田サミットが高知県梹原町で開催されたのです。同年、中島代表は棚田を研究対象とすべく、先ず棚田を二十分の一傾斜地の水田と定義し、棚田分布図で定量化して『棚田学』の地平を切り開きました。

そして棚田巡りが始まります。棚田百選は平成11年の選定ですが、代表は平成7年から6年足らずで百選の棚田134ヶ所を全踏査。まさに足で歩く調査で現地との交流を深め信頼関係を構築され、その間には棚田ネットワークと棚田学会の設立、更に行政に働きかけ各種の棚田保全立法につなげる等の活動の先頭に立ってこられたのです。

そうして迎えた傘寿・叙勲ですから棚田に携わる農民や市民・行政・学者達は我が事として共に喜び、かつてないことに棚田ネットワーク・学会・協議会の棚田三団体が揃って記念文集制作を後援したのです。

この記念文集『百人の棚田讃歌』は中島代表の人望あってこそ企画でしたが、棚田保全活動17年の歴史を長く後世に伝えることでしよう。



栃木県茂木町

茂木プロジェクト

岩ノ作棚田「春はそこまで」



オオイヌノフグリ



この冬も北関東地方では寒さ厳しい日々が続いています。岩ノ作棚田も例外でなく、雪で薄化粧した日もありました。節分を過ぎた今も、木々の梢を渡る風には頬を刺す冷たさが残っていますが、昼間の時間は日ごとに長くなり、陽射しにも春の明るさを感じられるようになってきました。南向きの土手では、すでに「オオイヌノフグリ」が咲きはじめています。まもなくニホンアカガエルが「キュッ、キュッ」という美声で恋の歌を聞かせてくれるようになります。

今年も体験米づくりなどを計画しています。田植えは、5月11日（土）の予定です。岩ノ作に程近い早坂棚田では、季節になると夥しい数のホタルが乱舞するそうです。今年はホタル観賞も計画してみようかなー、と思っています。「棚田で遊ぼう！棚田で学ぼう！」を合言葉に、今年もドロンコになりながら、皆で楽しい時間を過ごしましょう。

（安井 一臣）

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

「第6回かえるの卵を探そう！」にご参加を！



雪の坂折棚田

今シーズン、美濃は今のところ特に雪が少ないです。それで1月下旬に「中島峰広先生傘寿・叙勲記念講演会・祝賀会」に出席するため東京に行き、帰って来て駅を降りたら雪が道に除けてあってビックリ。毎度のことですが棚田のある美濃はそれほど雪は降りません（写真は昨年のもの）。

棚田ビオトープの作業としては2月中旬に畦畔草地の火入れをおこない、その後ヤマアカガエルの産卵のため棚田に水を張ります。3月24日（日）10:00から棚田ビオトープを中心に坂折棚田全域で棚田を代表する生物のひとつであり、初春の水溜りに卵を産むヤマアカガエルの卵を探す「第6回かえるの卵を探そう！」を開催します。ぜひ、ご参加を。

（相田 明）

静岡県松崎町

昔ながらの米づくりプロジェクト

今年も米づくり体験やります！



藁ポッチで保管した藁で「養口」をつくります



モグラが掘った穴

昨年、復田した3畝、8枚の田んぼで、今年も「昔ながらのお米づくり体験」を行います！今年最初の作業は、田んぼの形を作り直す「畔切り」という作業です。写真右のように冬の間にモグラなどが穴を開けた畦を鍬で切って、叩き固める田んぼの伝統的な基礎作業です。そして、昨年同様、藁で編んだ水の落とし口「養口」も作ります。今年は昨年収穫し藁ポッチで保管した藁（写真左）で作ります。また、看板作りや周辺の小さな棚田の復田なども企画中！3月16日（土）・17日（日）に開催しますので、ぜひご参加ください！

（高桑 智雄）

日本中の棚田のお米をお届けする「棚田米百選」



「うまい米 食べて応援 棚田を未来へ」
をスローガンとして、
棚田地域の魅力を伝えていきます。
そして、手間をかけて
想いを込めて作られている
棚田米の美味しさを、
みなさんに味わっていただけたら
嬉しいですね。

棚田米百選



<http://www.tanada-mai.net/>

お問い合わせ 棚田米百選 成川 亮治

〒210-0014 神奈川県川崎市川崎区貝塚1-12-11
TEL: 0120-41-5818 / FAX: 044-211-8308
メールアドレス: order@tanada-mai.net



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になると!

会報誌「棚田に吹く風」(年6回)やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト(イベント)への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

○個人会員

維持会員 1口1万円(1口以上)
一般会員 3,000円
学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまを募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費

○法人会員

1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイズ)は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。(詳細はお問い合わせください)

新年明けましておめでとうございませう! えっ、今頃? そうなのです。ついに「旧暦棚田こよみ」を開封する時がきました。旧暦お正月は、新暦の2月10日でした。なんでも写真を担当して頂いた青柳健二さんは、今年から旧暦で暮らす決心をして、新暦のお正月の挨拶を口にしながらつたそうです(笑)。さて、カレンダーを開いてみると、「魚上水」「春の七草」「草木萌動」「啓蟄」などなど、春の幕開けをつける言葉がたくさん! 昔、お正月は春の始まりを祝う行事だったのですね。冬の厳しい寒さを乗り越えて、やっと暖かさを感じるようになって、自然と「おめでたい」気持ちになります。いやいや旧暦侮りがたし。2月を開くのが今から楽しみです!

編集部から

ホームページのぞきを見て!

棚田ネットの
youtubeチャンネルで、
活動動画が見られます!



<http://www.youtube.com/user/tanadanetwork?feature=watch>



2013年3月号 Vol.87

発行 NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail: info@tanada.or.jp URL: www.tanada.or.jp
郵便振替口座: 00100-7-151565